

【貯法】
気密容器。

制 酸 剤

日本薬局方

炭酸水素ナトリウム

SODIUM BICARBONATE

日本標準商品分類番号									
8 7 2 3 4 4									

承認番号					(61AM) 第410号				
薬価収載					1986年1月				
販売開始					1952年2月				
再評価結果					1979年7月				

【禁忌：次の患者には使用しないこと】

ナトリウム摂取制限を必要とする患者（高ナトリウム血症、浮腫、妊娠中毒症等）〔ナトリウム貯留増加により、症状が増悪するおそれがある〕

【組成・性状】

1. 組成

本品は定量するとき、炭酸水素ナトリウム 99.0% 以上を含む。

2. 性状

本品は白色の結晶又は結晶性の粉末で、においはなく、特異な塩味がある。水にやや溶けやすく、エタノール又はエーテルにほとんど溶けない。湿った空气中で徐々に分解する。

【効能又は効果】

1. 経 口

1) 下記疾患における制酸作用と症状の改善

胃・十二指腸潰瘍、胃炎（急・慢性胃炎、薬剤性胃炎を含む）、上部消化管機能異常（神経性食欲不振、いわゆる胃下垂症、胃酸過多症を含む）。

2) アシドーシスの改善

3) 尿酸排泄の促進と痛風発作の予防

2. 含嗽・吸入

上気道炎の補助療法（粘液溶解）

【用法及び用量】

炭酸水素ナトリウムとして、通常成人1日3～5gを数回に分割経口投与する。含嗽・吸入には1回量1～2%液100mLを1日数回用いる。なお、年齢症状により適宜増減する。

【使用上の注意】

1. 慎重投与

1) 重篤な消化性潰瘍のある患者〔胃酸の反動性分泌により症状が悪化するおそれがある〕

2) 腎障害のある患者〔ナトリウム貯留により浮腫があらわれるおそれがある〕

3) 心機能障害のある患者〔ナトリウム蓄積による血液量増大により心機能負担が増大するおそれがある〕

4) 肺機能障害のある患者〔呼吸性アルカローシスになるおそれがある〕

5) 低クロル性アルカローシス等の電解質失調のある患者〔重碳酸イオンが増大しているので症状が悪化するおそれがある〕

2. 相互作用

(1) 併用注意（併用に注意すること）

1) 併用薬剤

消化管内・体液のpH上昇により、併用薬剤の吸収・排泄に影響を与えることがあるので、慎重に投与すること。

2) 大量の牛乳、カルシウム製剤

milk-alkali syndrome（高カルシウム血症、高窒素血症、アルカローシス等）があらわれることがあるので、観察を十分に行い、このような症状があらわれた場合には投与を中止すること。

3. 副作用

1) 代謝異常

アルカローシス、ナトリウム蓄積による浮腫等があらわれることがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には、減量又は休薬等の適切な処置を行うこと（頻度不明）。

2) 消化器

ときに胃部膨満、また、まれに胃酸の反動性分泌等の症状があらわれることがある（頻度不明）。

4. 高齢者への投与

一般に高齢者では生理機能が低下しているので減量するなど注意すること。

【薬効薬理】

1. 制酸作用

本品1gは約120 mLの0.1N塩酸を中和し、約270 mLのCO₂を発生する。この作用は速効性であるが持続が短く、また発生するCO₂は胃粘膜を刺激して二次的に胃酸の反動性分泌を促す。本品は吸収された後、重碳酸イオンとして作用し、血液・体液のpHを上昇させる。

2. 尿酸排泄作用

尿のpHをアルカリ化することにより、尿酸の排泄を促進する。

3. 粘液溶解作用

粘液をアルカリ化することにより溶解させる。

【有効成分に関する理化学的知見】

1. 一般名

炭酸水素ナトリウム

2. 化学名

sodium bicarbonate

3. 分子式

NaHCO₃

4. 分子量
84.01

【主要文献】

第13改正日本薬局方解説書，第1部医薬品各条C-1635，
廣川書店。

【包装】

500 g、5 kg。

【文献請求先】

タツミ薬品工業株式会社 学術情報部
〒537-0013 大阪市東成区大今里南5丁目14番6号

【製造業者の名称及び住所】

製造発売元 タツミ薬品工業株式会社
大阪市東成区大今里南5丁目14番6号